

第25回 かたの環境を考える委員会

■概要

- ・日時：平成23年10月4日（火） 18：30～21：30
- ・場所：交野市役所 別館3階中会議室
- ・テーマ：（全体会）中間案発表会について
（作業班ワーク）中間案発表会にむけて
（グループワーク）プロジェクト立案

■進行・内容

★18：30 交野市環境保全課長より開会の挨拶。

★18：32 全体ガイダンスとロードマップの説明。

| 10/4 | 10/17 | 10/31 | 11/9～11 | 11/14 |
|--|---|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・グループビジョン確定 ・意見交換会の司会、記録係選出 | <ul style="list-style-type: none"> ・全体ビジョンを考える ・グループ発表の仕方 | <ul style="list-style-type: none"> ・資料原稿締め切り | <ul style="list-style-type: none"> ・横断幕づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・通し稽古 ・グループ展示を行うか確定 |

★18：37 交野市環境基本計画「策定から実行まで」について、環境保全課長より説明。

- ・環境基本計画は、目的、役割、期間を提示し、プロジェクトができあがったら精査をして完成形となる。
- ・交野市の「みんなの“かたの”基本構想」のなかに、交野のまちがこうなったらいいという「かたのサイズ」をめざす像82項目があるが、それらを具現化するひとつの位置づけとして基本計画がある。基本構想を環境面から実現するプロジェクトとして、市と市民が一緒になってすすめていく。
- ・計画策定後のプロジェクトは、市民、行政、事業者が協働により実施していくものである。
- ・来年4月以降は実行段階に入るが、この委員会が市と市民の協働の中心的存在となって推進したい。

★18：57 環境基本計画完成までのスケジュールを確認。

11月：ビジョン案、プロジェクト案の完成

12月：中間案発表会で市民から意見を受け、案を修正し、目標数値を設定する。

1月：パブリックコメントにかけて、20日～30日の間に市民から意見をもらう。

2月：パブリックコメントでもらった意見を受けて、計画案を修正。

3月：市議会で報告し、完成⇒実行に移す。

★19：00

作業班での相談

全体会で発表

○ 企画班

- ・ 意見交換会は、グループごとにワークショップ(双方向・参加型)形式でおこなう。グループがホスト役になり、その分野に意見のある市民が集まる。
- ・ 市民には付箋に意見を書いてもらい、模造紙に貼っていく。そのとき自己紹介をしてもらう。
- ・ 課題を3つピックアップし、優先準備をつける。
- ・ グループから進行役2人、記録係1人を選出する。
- ・ グループ内での意見の出してもらい方や進め方については、特別講座を設ける。(各グループから2人参加)
- ・ 発表会への意見は、後日メールでも受け付ける。

○ 広報班

- ・ 発表会の案内チラシを区長会に持参し、自治会での配布をお願いをする。
- ・ 配布先は、市内の行事、文化祭、40周年式典、市内の学校(幼、小、中、高)、事業所、銀行、農協、商業連合会、市内6箇所の駅。11月16日に駅で配布(17日予備日)。時間は、通勤時間帯の朝7時から8時半ごろ。配布に行く人数は、主要駅6人、その他の駅は2人体制。
- ・ 配布に協力してくれる方を募集する。
- ・ チラシを配布する際は、かたの環境を考える委員会のメンバーであることがわかるように名札をつける。

○ 会場運営班

- ・ 前回、企画班から出されたタイムスケジュールにそって、11/26のスケジュールを考えた。11:40に集合し、45分間で準備。12:30受付開始、13:00開会。
- ・ 会場運営班のメンバー以外に、当日設営を手伝ってくれる方の協力を願いたい。
- ・ 11/26の発表会(交野市役所別館)のレイアウトは、正面上に横断幕、右に白板(式次第用)、左に出入り用目隠しパネル、左奥にスクリーンを設置。
- ・ グループ発表の方法によって、照明の暗転を考える。
- ・ 机は横4列×縦8列(32台)、机1台に椅子3脚を入れる。
- ・ 会場準備は会場運営班の指示者にしたがって、移動する。
- ・ 進行表の作成と指示係を決定する。
- ・ 横断幕のデザインを募集する。横断幕の言葉の並べ方は17日に案を出す。

○ 資料班

- ・ プロジェクトフォーマットに、問題、課題、評価基準の項目を追加するので、各グループの担当者に改定フォーマットを送る。

(議論の結果)

- ・ 質問については、後の意見交流会で受け付けることをあらかじめ伝える。
- ・ 後半の意見交換会まで残らない人には、アンケートに意見・質問を書いてもらう。

★19 : 50

○ 委員長の選出について

- ・ 委員長の選出はしない。
- ・ チラシ配布のお願いに区長会を訪問する際は、環境部の部長または次長が、かたの環境を考
える委員会からお願いにあがったと紹介してから、広報班の方からチラシ配布のお願いの旨
を説明する。

○ 中間案発表会の役割分担を決定

- ・ 司会者が開会・閉会の挨拶を行う。
- ・ 委員会の挨拶・趣旨説明：未定
- ・ スケジュール紹介：未定
- ・ 環境基本計画とは説明：交野市
- ・ 全体のビジョン説明：未定
- ・ 会場進行：会場運営班

★20 : 05

プロジェクトの調整について環境市民堀事務局長より提案があった。

- ・ 各プロジェクトを一緒に推進する担い手を養成する講座を4つのグループの共通プロジェク
トとして実施するのはどうか。
- ・ エコ生活グループで案としてあがっているプロジェクト「誰でもエコ良人（ろじん）」を発展
させた形で、初級、中級（エコアドバイザー、インタープリター、プロジェクト推進）とい
ったコースで受けられる講座にするのはどうか。
- ・ 来年の4月以降、エコ生活グループだけで担い手講座を実施するのは難しい。4グループが
別々に動くのではなく、共通して仲間を増やすプロジェクトとして実施してはどうか。
- ・ 環境フェスタの位置づけについては、各プロジェクトと両輪で動いていくと表現するのはど
うか。環境フェスタでたくさんの市民の目に触れる場面を各プロジェクトが活用していくこ
とができるのではないかと。相互補完の関係で活用し合い、発展していく形になればいい。

(議論の結果)

提案内容が了承された。

★20 : 20

プロジェクトのまとめ方と担い手の考え方について、環境市民堀事務局長より説明があった。

- ・ プロジェクトシートを仕上げる際は、必要な項目だけに絞り、意見交換会参加者が意見を入
れていける工夫をしておくといい。見せ方としては簡略化していても、グループ議論で話し
ていることをもとに、どのような答え方をしていくのか、グループ内で考えておくことが必
要。
- ・ プロジェクトを実行できる人がいないからといって、交野にとっての明らかな課題をなくし
てしまうのではなく、交野市にとって必要なことは計画書にのせていくことが必要。
- ・ 交野市にとって大事なものだが、ひとつのプロジェクトにするのは難しい場合は、ひとつの

プロジェクトの一要素として入れていくことも可能。

★20：30

グループワーク

基本構想とプロジェクトの関連を確認／プロジェクトの内容を深める

★21：30 終了

■中間案発表会について作業班での議論の詳細

○企画班

- ・意見交換会は65分間、ワークショップ形式とする
- ・あらかじめ課題に優先順位をつけて、話したいことを3つぐらいピックアップ
- ・グループごとの4テーブルに分かれ、それぞれで委員が進行する
- ・司会を2名と記録係1名をグループから選出する
- ・まずグループで考えたビジョンやプロジェクトについて参加者に話す
- ・それについての意見を参加者に付箋に書いてもらう
- ・模造紙に付箋を貼っていく形で意見を出してもらう
(最初は名前を書いた付箋を同時に出してもらって自己紹介を兼ねる)
- ・ワークショップで上手に意見を引き出す方法は特別講座を設定する
環境市民の堀を講師とし、各グループの司会者が受講する
- ・中間案についての意見は12月6日の午前までメールで受け付ける

○会場運営班

中間案発表会(11/26)のタイムスケジュールと場面の決定

11:40～会場入り口に集合し、11:45～準備開始(45分)

12:30～受付開始、13:00開会

〈場面A〉開会の挨拶、委員会挨拶、市長挨拶、趣旨説明、スケジュール紹介

[正面] 上：横断幕 右：白板に式次第 左：出入り用目隠しパネル

[舞台] 左下：司会用スタンドマイク 上：左奥にスクリーン

中央：演台とスタンドマイク

[会場] 机：横4列×縦8列 椅子：机1台に3脚

[入り口付近] 受付用机1台、椅子3脚

[後ろの壁際] パネル(各グループの要請により設置)

[プロジェクター]

〈場面B〉交野市環境基本計画とは、全体ビジョン紹介、グループ発表

(場面Aと基本形は同じだが演台はなし／照明は必要に応じて点灯)

[舞台] 左端にめくり案内板

[発表用手持ちマイク]

〈会場準備〉

1. 参加者に椅子を持って、会場の周り（ぐるり）に行ってもらおう
2. 設営者が机で島をつくる
3. 参加者は興味のあるテーマの島へ椅子を持って移動

〈場面C〉意見交換会、閉会の挨拶、終了

（舞台付近は場面Bと同じ）

〔会場〕机4台で島を四つつくり、椅子14脚+αを入れる

島の机にはグループ名を書いた三角柱を置く

- 当日、準備や設営に協力してくれる人を募る
- 詳細な進行表を次回の委員会までに作成する（人数わり、担当者など）
- 指示係を決定する
- 横断幕につける飾り（モールや花など）のデザインを考える

○資料作成班

資料フォーマットに、活動企画考案シート下段の「問題・課題・評価の基準」を追記して、各グループにメールで送信する。

○広報班

配布先（ちらしを置いてもらうところ）

- ・区長会（11月10日頃）から各自治会へ依頼、回覧板、掲示板へ
市の部長もしくは次長の紹介で広報班のメンバーが説明に行く
- ・スーパー（ラッキー、Aコープ、関西スーパー、ニッコー、イズミヤ、スーパートップ、アリケン、万代×2、ツジトミ、ピーコック 10カ所）
※近くの方に置いてもらえるように依頼
- ・ドラッグストア（アカカベ、キリン堂）
- ・駅（京阪郡津、交野市、河内森、私市、JR星田、河内磐船）
- ・市の文化祭（11月）
40周年式典（11月3日）、スポレク体育館
- ・学校（幼・小・中・高）
- ・事業所（工業会、商業連合会）
- ・銀行、農業

駅前配布日

11月16日（水）、予備日17日（木） 午前7:30-8:00 駅での配布

配布者（協力願い）おりひめちゃんマークをつけた「かたの・環境を考える委員会」の名札が必要

駅（京阪郡津4人・交野市6人・河内森2人・私市2人、JR星田6人・河内磐船4人、最低24

人)

■グループ議論の詳細

【エネルギーグループ】

1. プロジェクトの精査

①そらいけソーラーパネルプロジェクト

● プロジェクトが目指す将来展望について追加

具体的な活動内容から、活動が将来目指しているものについて議論し、以下の内容を将来の展望として追加することになった。

【エネルギーに関心のある人を増やすとともに、社会情勢をみて、自然エネルギーを効率よく利用できる都市のあり方について議論する場を設け、実現可能なものから取り入れる。例えば、太陽熱利用の推進、自然の風を活かしたまちづくり、高効率エネルギー利用（スマートグリッド）など。】

（出た意見）

- ・ 市民主体のソーラーパネル設置の動きでうまくいっている例はあるか？
- ・ 野洲の地域通貨「すまいる」や、きょうとグリーンファンドなどがあるが、じっくりと時間をかけて実施している。
- ・ 交野市でも、ひとつでもシンボリックなものができればいいのではないか。

⇒中間案発表会ではこのままの案を出して、意見交換会で市民から意見を聞く。

● 目的、波及的効果、主体、対象を確定

- ・ 誰が（主体）：推進組織、環境保全課、市役所の関係ある課、事業者、環境フェスタ、商工会議所 ⇒市役所の課で巻き込めそうなところは、職員が確認。
- ・ 誰に（対象）：市民、事業者、公共施設
- ・ 目的：地球温暖化防止、省エネ、節電
- ・ 波及的効果：エネルギーに関心ある人を増やす、エネルギーの地産池消の実現、分散電源

②風の通るまちづくりプロジェクト

プロジェクト案は、風通しのよいまちづくり=都市構造、風通しのよい家=住宅構造になり、壮大な内容のため、一つのプロジェクトとしてではなく、そらいけソーラーパネルプロジェクトに入れ込む形にするか議論した。結果、例として上げていた「天然の涼み処（陽だまり処）の開設」を取り上げて、プロジェクト化することになった。

（出た意見）

- ・ 交野は大阪に比べて涼しいので、測定を実施して、涼しさをPRしてはどうか。
- ・ まちづくりグループのプロジェクト案で出ている、インタープリター養成でインタープリターになった人によって交野の涼しい場所を案内してもらうのはどうか。

⇒将来的な展望を入れた、「風を活かしたまちづくり」プロジェクトとして改訂版を提出。

③星のまち☆エコドライブプロジェクト

課題「省エネルギーをすすめよう」から考案されたプロジェクトについて、内容を確認した。プロジェクト内容は以下のとおり。

- ・ 目的：直接化石燃料の削減につながり、その効果も高いとされるエコドライブの実践を多くの市民が意識し、エコドライブが当たり前なまちを目指す。
- ・ 波及的効果：多くの人エコドライブを実践することで、交通事故も減少する。
- ・ 主体：本委員会、市、府、企業
- ・ 対象：市民、従業員、流入車両運転手
- ・ 内容：○第1段階（エコドライブ推進実行委員会の設立、講習会、ガソリン家計簿のデータを活用しパンフレットを作成）○第2段階（出前講座、エコドライブステッカーの作成、取り組む事業者・個人を募集し、優良者を顕彰）○第3段階（エコドライブの実践年数により、市と推進組織から顕彰）

（出た意見）

- ・ 企業などが取り組み、削減した分をステッカーやパンフレットの作成費用として捻出してもらい仕組みはどうか。企業にもメリットがあり、プロジェクトにもお金が入るような仕組みを考えるのはどうか。
- ・ 国から企業への委託事業としてエコドライブ講座がある。講習会は実施する方もメリットがあると思う。

⇒資金の算段、エコカー普及の展望を加えて改訂版を出す。

2. 中間案発表会 意見交換会の司会と記録の決定

☆ 次回の予定：

- ・ 「風を活かしたまちづくり」プロジェクトと、「星のまち☆エコドライブ」の改訂版にそって、プロジェクトを検討する。
- ・ 中間案発表会でどのような発表の仕方をするのか考える。

【エコ生活グループ】

1. 中間案発表会の資料原稿の作成者の決定

2. 中間案発表会当日の出欠

3. 意見交換会の司会と記録係の決定

4. 基本構想 82 項目とプロジェクトの関連付け

各プロジェクトシートと「かたのサイズをめざす像」の関係について関連付けを次回までに行う。

5. グループビジョンの見直し

- ・総合計画との関連で、新しいキーワードが出てくるかもしれない。
 - ・分かち合う暮らし(例)たくさん農作物がとれたら共有、お金がなくても豊かな暮らし。
 - ・「エネルギー問題に関心を持…」というビジョンについて、エネルギーも含めた、環境という言葉にかえてはどうか？(環境は、エネルギー、生態系等幅広い意味で捉える)
- ⇒既存の7つのビジョンに「分かち合う暮らし」を加えた、8つのビジョンを次回までにまとめる。

6. プロジェクトの検討

◆生ごみの堆肥化

Q：野菜の半額券をもらった農家はどのようにする？

A：市役所で換金？

Q：市は収集と半額券の換金で(金銭的に)負担が大きくなるのでは？

A：燃えるごみの収集が現在週2回なので、生ごみと生ごみ以外の燃えるごみを1回ずつにする。半額券については堆肥化した土の販売額と、野菜の供給量をみて、3割引券など数字を変える。

Q：生ごみが週1回しか回収してもらえないと、臭いが気になるのでは？

A：水分をしぼることや、土/生ごみ/土/生ごみ/土/・・・とサンドイッチ状にして保存する等臭いがしない方法を周知する。いつでも疑問を解決してくれる場所を作る。水口町(甲賀市)では、実例がある。

Q：モデル地区の選定から試行には1年しかないが、区長等にはどのように説得するのか？

A：生ごみ利用は誰でも良いと思っていることなので、メリットを提示する。

Q：いきなりモデル地区の選定は大変なので、選定の前にやってみようという人を増やすのはどう？

A：モデル地区がなければモニターを増やすのもいいと思う。初心者には、坂本委員がアドバイザーとなって、お悩み相談所をする。

◆環境家計簿

Q：目標の数字についてはどうする？

A：まだ決めていない。

Q：高島町では7,500世帯のうち、1,030世帯が参加と参加率がとても高い。評価の基準に取

り組み件数を入れては？目標は1,000件（回収率60%）とか。

⇒次回までに検討

Q：回収方法を考えているか？

A：まだ、考えていない。次回までに検討。

Q：親子でエコチャレンジと環境家計簿がくつついたはずのプロジェクトだが、親子の視点がなくなっているのではないか？

A：つけ方説明会の時に、記録係を夫や子どもにしましょうなど、家族全員で取り組めるような提案をする。

⇒次回までもう少し家族で参加できる視点で考える。

◆誰でもエコ良人

Q：目的に「興味がなかった人も巻き込んで」と記載されているが、どのようにして巻き込むのか？

A：現在、行われている環境に関係ない講座にも、環境の要素を入れてもらう。例えば、料理講習会に地産地消や季節の野菜を取り入れてもらう。

Q：他のプロジェクトの人材養成も兼ねるようなプロジェクトにしてほしいが、その仕組みについてはどう考えているか？

A：環境検定を行って、環境マイスターの認定をしようと考えている。

⇒先進事例として、3R検定があり受験者も多いが、知識のある人は増えても、行動している人がいないという問題がある。行動する人がたくさんできるような仕組みをプロジェクトに入れてほしい。

7. プロジェクトシートの書き方について

- ・「何をするか<内容・手法>」の欄にプロジェクトの詳細は書いてあるが、パッとみて何をするのかかわからないので、1番最初にプロジェクトの簡単な概要を書く。
- ・「評価の基準」をざっくりしたもので良いので、記載する。

☆宿題：次回までに各自プロジェクトをブラッシュアップし環境保全課まで送付。次回は、

- ・中間案発表会の展示をどうするか考える。⇒布草履などのリサイクル品や段ボールコンポストなどの実物を展示してはどうか？
- ・中間案発表会の発表方法を考える。
- ・「かたのサイズをめざす像」との関連を考える。・ビジョンの見直しを行う

【まちづくりグループ】

1. 中間案発表会の資料原稿作成の担当および当日の出欠について

- ・資料原稿は、各プロジェクトの担当チームが作成する。

本日の欠席委員については、環境保全課より後日確認の連絡をとる。

2. 意見交換会の司会と記録係について

3. 基本構想 82 項目とプロジェクトの関連付けについて

職員より、「かたのサイズをめざす像」と基本計画との関連を確認。担当プロジェクトに関連する項目を列挙した。「農業活性プロジェクト」→32, 44, 52, 53, 54, 55

「自然満喫エコツアー」→32, 37, 38, 39, 40, 42, 49, 50, 51, 52, 55

他プロジェクトについては、各担当者が次回までに挙げて来ることとする。

4. グループビジョンの見直し

今までの議論の中で出てきたグループビジョン案を俯瞰し、統合ビジョンとその内容を併記する方向でまとまった。新たなグループビジョンは以下の通り。

住み続けたい環境へ・やさしいまち交野

ずっとあるものがあるべき姿のまま、50年先・100年先まで残っている

それを誇れる人がたくさん住まうまち

それぞれの地域柄を大切にし、愛着をはぐくむ魅力あるまち

誰もが安心して住まい、自宅からまちなかまで安全・快適に暮らせるまち

みんなが主体者になり、まちのことを自分たちで考え、解決してゆくまち

5. プロジェクトの精査

課題③地域で子どもを育てる環境づくり

◆かたの自然、農業、歴史に触れて、子どもの育てやすい環境を

(第1段階)・・・準備(半年～1年)

・委員の募集、人材養成の設立。

・小学校と地域のつながり・事例を調べる。

(第2段階)・・・モデル地区(2～3箇所)を選定。(3年)

・親子や地域の人と協力し、かたのマップをつくろう。

・休耕中の田畑などを利用し、親子で参加のできる農業体験(米、芋作りなど)を開く。

(第3段階)・・・全市展開する。(5年)

・小学校区内の子どもと校区内の大人との関係を深めるための場所をつくる。

(第4段階)・・・交野市内における「将来あるべき姿」の実現をめざす。(10年)

・川の水がもっときれいに。

・川辺で遊べる場所がたくさんある。

・「自分の食べるものを作りたい！」人が増え、作れる環境

<出た意見>

- ・目的欄の「各地域で子どもを育てる」は、少し意味が通りにくいので、「子どもを育てる環境づくり」とした方がよい。
- ・第2段階に川辺の遊び体験を入れた方がよい。
- ・第4段階は、第2段階に統合し、「将来的には…」という表現にした方がよい。

◆住民が主体の乗りやすいバス

<出た意見>

- ・ここまで詰めた内容を中間案発表会の資料に載せると、市民のみなさんが一緒に考える余地がないことに気付いた。資料用には、内容を間引いて魅力的な表現となるようにし、手元資料として詳しい内容を用意しておくことにする。

6. 評価の基準について

- ・評価には、数値で示す方法と状態で示す方法とがある。
- ・10年後に「こうなったら成功」という目安を示す。
例) 自転車保有者数の1/3が講習を受けている。など

☆宿題：各担当プロジェクトについて、基本構想82項目との関連付けおよび評価の基準について考えると共に、プロジェクトの内容を深めてくる。

次回は宿題を持ち寄り、共有と意見交換を行う。また、中間案発表会の発表方法および展示についても検討する。

【自然環境保全グループ】

1. 役割分担

中間案発表会に向けた作業について役割分担をした。

- ・資料原稿作成
- ・意見交換会司会と記録の決定
- ・基本構想とからめたグループビジョン見直し案の作成

2. 里山保全のプロジェクトについての意見交換

このプロジェクトは、基本構想の「“かたのサイズ”をめざす像」の主に49番「里山の植生が豊かで大切な憩いの場となっている」、50番「自然の中では多様な生きものと触れ合うことができる」と関連することを確認した。

前回までの議論を踏まえて出された、プロジェクトをひとまとめにする案(2案)と三つに分ける案(2案)の合計4案を見て、どれを基本にするか考えた。

<出た意見>

- ・三つに分ける案では、それぞれに調査の内容が入っているので、調査のプロジェクトを別に分けて、全部で四つのプロジェクトに分けてみてはどうか。
- ・あまり細かく分けると進行管理が大変になる。たとえばAの2番とBの1番は一緒にすすめるなど、関連も出てくるのではないか。
- ・一つにまとめるとずいぶん重たい内容のプロジェクトに感じられる。

<結論>

里山保全プロジェクトは、A「里山を知ろう・里山大好きプロジェクト」、B「里山活動をする人を増やし、里山活動を実践するプロジェクト」、C「里山の持ち主と活動団体を結ぶプロジェクト」の3プロジェクトに分ける案（バージョン 1.2、作成日 2011.9.18）を基本に進めることにする。このシートをもとに、3枚のシートに書き直す。

書き直されたシートはグループメンバーにメールで送信されるので、必ず返信をすること。

3. 川の環境保全プロジェクトについての意見交換

このプロジェクトは、「“かたのサイズ”をめざす像」の47番「川や池など水辺環境がきれいで、潤いがある」と関連することを確認した。

前回までの議論を踏まえてまとめられたプロジェクトシートを見て、どのように仕上げるか考えた。世話人会で、市政40周年で天野川の河川敷にサクラとカエデを植える事業と協力して進められないかという意見も踏まえて議論した。

<出た意見>

- ・天野川は交野市のシンボルリバー。
- ・生駒市の工業団地が上流を汚しているが、中流では曝気などによりきれいになっている。汚れているという印象はあまりない。
- ・安全性の確保と生きものの棲みやすさは両立が難しい。
- ・市民による上流、中流、下流の連携した取組をめざし、天野川サミットがある。
- ・昔の姿との違いは、川に近づけなくなっていること。うるおいを取り戻したい。

<結論>

市民の川への関心は高くないのではないか。それなら、関心を高めるためのイベントや調査などをするところから始めるのが現実的。現在、シートの内容欄に書き込まれている「水マップづくり」「生きもの調査」「昔の姿の聞き取り調査」などでまずは関心を高める工夫をし、次の段階へのステップとしてはどうか。

この議論をもとに、次回までにプロジェクトシートを書き直す。

☆次回の予定：今回の議論を踏まえ、里山保全のプロジェクトと川のプロジェクトをまとめていく。「グループビジョン」「評価の基準」についても決める。

中間案発表会で展示をするかどうか、するならどんな展示にするか、グループ発表はどんな形式であるかを決定する。

なお、10月11日、13日、14日のいずれかの午後6時から集まって、プロジェクトの内容を詰める話し合いをする。

以 上